国府支援学校の「働きやすい職場環境」マネジメント事業について

文責　国府支援学校長　田中清章
令和８年 10 月 13 日

【現在の教育を取り巻く環境状況】

現在、多くの学校で教員不足が深刻な状況となっており、担任の不在や代替教員の不十分な配置により、周囲の教員や管理職がカバーすることで長時間労働やストレスが生じる負の連鎖が懸念されています。

【国府支援学校の具体的取り組みと成果】

国府支援学校では、人材確保の手立てとして「国府支援学校サポーターズクラブ」の設置や「就職ガイダンス」の開催に取り組んでまいりました。その成果として、令和８年度は新たに 10 名の常勤講師（新採用含む）を迎え、全クラスに担任を配置することができました。

【課題と「マネジメント時間」による対応】

一方で、本校で初めて勤務する常勤講師や経験の浅い教職員については、障がいのある児童生徒への教育（接し方、授業の組み立て、行動への対応等）に関する不安が大きいため、具体的に「学ぶ機会」と「相談時間」をいかに確保するかが喫緊の課題となっていました。 そこで、教頭・学部長・学年主任等が授業場面で直接指導助言や悩みを聞き取る時間を計画的に生み出し、『相談しやすい雰囲気づくり』と『働きやすい職場環境』をマネジメントする仕組みを構築し、実践に取り組んでいます。

【具体的な「マネジメント時間」の創出と動き】

教　頭：授業時数９時間（うち３～４時間をマネジメントに充当）
　　計画的に全クラスを訪問し、指導助言を実施。
学部長：授業時数 12～13 時間（うち３～５時間をマネジメントに充当）
　　初任者や新規常勤講師の授業を巡回し、きめ細かなフォローを実施。
学年主任：授業時数 19 時間（うち１時間程度をマネジメントに充当）
　　学年団の全クラスを訪問し、児童生徒の状況を管理職に報告する。

【実践の成果と手応え（10 月現在）】

今年度からの本格導入以降、管理職や学部長が日常的に教室へ足を運び、声をかけることで、初任者や新規常勤講師が孤立せず、日々の指導上の悩みや不安をその日のうちに相談・解消できる環境の定着を目指し取り組んでいます。「一人で抱え込まず安心して教壇に立てる」といった若手からの声も上がっており、メンタルダウンの未然防止と学校全体の組織力向上に向けて確かな手応えを得ています。今後も教職員課と連携しながら、持続可能な職場環境づくりを推進してまいります。